

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770400752		
法人名	株式会社 愛心会		
事業所名	愛心会ほっとファミリーぞうの目		
所在地	いわき市佐糠町東1丁目10-8		
自己評価作成日	R1/6/13	評価結果市町村受理日	

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の談話の中から利用者様の希望、要望を取り入れ、日常的に散歩や買い物へ出かけ、またドライブや小旅行など季節ごとのイベントも毎日企画している。日課にとらわれず、本人の生活リズムを尊重している。家庭的な雰囲気の中で生活して頂けるよう自分で出来ることをしえんしている。本人とご家族様が安心して生活が出来る様最大限努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	令和元年7月11日

管理者と職員は年度初めに前年度の目標を振り返り反省し、新たな目標は利用者のよりよい生活につなげられるよう考えて作り上げている。  
利用者一人ひとりに寄り添い気づいたことは話し合い、その人がその人らしく暮らせるよう、笑顔でやさしい心を込めたケアのサービスに取り組んでいる。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り、常に朝礼時には理念に触れている。また、いつでも確認できるよう事務室に掲示されている。日々理念を具体化できるよう意識してサービスの提供に努めている。	法人の理念を基に毎年目標を立てて取り組んでいる。目標は職員全員で意見を出し合い作り上げている。職員は、笑顔で優しい心を込めた声掛けを心掛けており、利用者が明るい表情で生活できるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアも受け入れており、近所の病院や民生委員との繋がりも大切にしている。	地域の自治会に加入しており、地域で開催される祭りなどの行事に参加し交流している。地域住民や近所のスーパーの店員は利用者へ声を掛けてくれ気にかけてくれている。事業所は介護保険に関する相談を受けたことがあり、地域住民に頼りにされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常的に買い物や散歩、ポーチに出たり、近所のひとたちとあいさつを交わしたり、話をしたりして触れ合う機会を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の定期的な開催で、包括支援センターや民生委員やご家族の助言を得ている。サービスに反映出来る様に取り組みたい。	会議で得た情報や助言をサービス向上に活かしている。不審者の情報を得た際に、事業所に緊急通報装置を整備し対策している。救急救命の装置があることを地域に案内して、住民も役立てられるようにしていこうと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	その都度利用者の受け入りの相談や居室の空き状況などの情報交換をしている。	運営推進会議を通して、包括支援センターの職員へ事業所の実情を伝えている。市町村からは地域住民の介護に関する相談の依頼を受けたことがある。事業所は、市町村と情報のやり取りを行いながら連携するようになっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は、玄関にかぎはかけずにセンサーで外に出ようとする利用者の把握を行い、鍵を掛けないケアに取り組んでいる。また、研修などに参加し、スタッフ各自が身体拘束廃止に向けた取り組みを行っている。	職員は利用者が外に出たくなる理由を日頃の様子から理解し、無理強いせず、利用者の思いに寄り添い対応している。言葉による行動の制限については、職員同士でお互いの対応に声掛けしあえる関係を作り注意しあえるようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会に参加し、虐待防止について学ぶ機会を待っている。また、職員は相互に身体状況を確認している。利用者等への接し方の悩みは管理者が相談に応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員ミーティングの際に、勉強会を設け権利擁護について学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	1つ1つ説明し、理解・納得を得られるように努めていると共に、疑問が後から出てきても、再度説明するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは積極的に会話する機会を持ち、意見・不満・苦情を引き出す努力をしている。ご家族とは受診や往診、衣替え等の機会に話し、意見・不満・苦情などを引き出すようにしている。	事業所の行事を新聞などで家族に知らせ参加してもらい、利用者と一緒に過ごす中で意見や要望を聞けるようにしている。家族から本人と事業所の話が違うとの意見があり、生活記録をもとに話し合い理解してもらい、新たな要望などを聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティング等で、職員の意見や要望を聞くと共に、日常的に意見を言ってもらえるような環境作りにも努めている。	職員は、利用者一人ひとりを理解し、その人に合ったケアについて意見や提案を話し合い、その人らしく生活できるようにしている。気づいたことは、申し送りで共有し、ケアにつなげている。法人から職員に、研修会への参加を働きかけ、質の向上に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回のストレスチェックと年に2、3回、代表者と管理者・職員個人と面談を行い、疲労やストレスの要因について気を配り、職員同士の人間関係を把握し、居心地の良い職場にするように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外の研修や、社内の月に1度の勉強会や勤務年数に応じた研修会に参加するようにしている。その後のフォローアップにも努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入しグループホームでの悩みやケアで困っていることを意見交換し、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の言葉や、態度や仕草からその思いを察する努力をし、利用者本意の関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との話し合いの中から、これまでの家族の思いや必要としていることを理解し、受け止める努力をしながらより良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自身の思いや意見を上手に表すことができない利用者であっても嫌がること、好むことなどの言動から本人の意向と汲み取るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的なケアでなく、利用者と一緒に作業するように努め、ともに暮らし学びあえる関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡を密にとり、コミュニケーションを大切にし、協力を得ながら一緒に本人を支えていくように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との積極的な外出など馴染みの関係が途切れない様に努めている。	家族・友人・孫が訪問してくれて、楽しい時間を過ごしている。家族の方と小旅行や紅葉狩り、外食するなど出かけている。馴染みの美容室に家族と外出したり、訪問してもらったりし、馴染みの関係が継続できるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの特性上、他者と関わりたくない利用者もいるので、職員が個別に柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用期間のみの関わりではなく、終了後も何時でも相談に応じる対応をとっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	朝の申し送りや月に1度のミーティング時に随時話し合いを設け、本人の希望や意向を把握するように努めている	家族から生活歴を聞き職員は共有し、声かけや話を工夫し思いをくみ取りようとしている。ポツンと話している時を逃さず、表情を見ながら家族の話をしたりその人に合わせて思いを聞くようになっている。困難な時は、声かけを工夫し表情を見ながら把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴・経過等の情報は、ケースに記録し把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの日々の様子をケースに記録している。また、少しの変化にも気づけるよう、傾聴と観察を心がけ、状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、介護職員全員で話し合い、的確なニーズ把握へ努めたうえで介護計画を作成している。	本人・家族の思いや意見を取り入れ、医師・看護師と連携し、職員と介護計画作成担当者と話し合い、その人らしく暮らせるよう個別の具体的な介護計画を作成している。身体状況が変化した場合、本人・家族の要望に応じて、柔軟に対応し計画を見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子やケアの記録は、個別のファイルにわかりやすく記入されており、情報の共有と実践に生かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の受診の送迎や、外出支援など利用者の状態やペースに合わせた柔軟な対応が取れる様に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア(夏祭りやXmas会など)の受け入れや利用者の希望により2~3か月に1度訪問理美容サービスを利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族になじみのかかりつけ医がある場合は、その受診を支援している。それ以外の利用者には、協力病院を紹介し本人・家族の同意を得て、医療を受けられるよう支援している。	本人、家族の希望するかかりつけ医での受診を支援している。心身の状況に変化がある利用者へは、職員の同行や手紙で医療機関へ情報を提供している。受診後は家族から話を聞き、受診結果の把握に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しでも状態の変化が見られた場合は、看護師に相談し、必要な対応を行っている。また、状況に応じて訪問看護師に相談し、適切な受診や治療を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、職員は面会に行っており、家族や病院関係者との連絡を密にし、情報交換を行うようにしている。早期退院や退院後の支援についても家族・病院関係者・職員で協議している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にもしもの時の対応を家族と確認している。状態の変化が見られたときには段階的に、本人・家族と話し合い急変時に迅速に対応出来る様、医療機関との連携を密にしている。	事業所は看取りができる体制を整えており、研修などで職員が利用者や家族の思いに寄り添い対応できるようにしている。重度化、終末期においても協力医療機関と相談しながら、慣れ親しんだ環境の中で最後まで生活できるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内において緊急連絡網で、報連相をスピーディにしている。また、消防署から講師を招き心肺蘇生や緊急時の対応を定期的に研修している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練(日中の場合・夜間の場合)、避難経路の確認、消火器の使い方等の訓練を定期的に行っている。またスプリンクラーの定期点検もおこなっている。	火災や地震などを想定し避難訓練を実施している。その日に出勤している職員の判断で通報や避難が速やかにできるようになっている。災害時の受け入れ先の施設や備蓄準備などの対策も整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の意思を尊重し、プライバシーを損ねないような声掛けや見守りの対応をするように心がけている	職員は日頃から声掛けや対応に気を付けており、注意しあえている。利用者を人生の先輩として尊敬しながら対応するよう心掛けている。利用者同士のトラブルは職員が間に入り、嫌な気分が残らないよう、気持ちが明るくなる会話を提供し対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が強制することなく、入浴の希望や衣類の選択等、いろいろな場面で本人の想いや希望が自己決定出来る様、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースを大切にしており、自室での読書やTV鑑賞、外出等の希望があった場合には、状況に応じて柔軟に対応出来る様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の乱れを整えたり、見守り介助などで、個人の力に応じて必要な支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人ひとりの力を活かした役割を持ってもらい、職員は利用者と一緒に、準備や片づけをおこなっている。買い物中にも食べたいものや、季節の物などを献立に取り入れることで、食事が楽しみになる様支援している。	献立は職員が決めているが、買い物中に利用者の希望を取り入れて変更している。きざみ食などの食形態や、箸や食器の形状や軽さなども配慮し食べやすくしている。低栄養の利用者へは補助食品でバランスのとれた食事ができるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量が1日を通して、一目でわかるよう利用者ごとに記録している。また、利用者の好みや苦手なものを把握しており、一人ひとりの状態に合わせて代替え品を提供するなどの支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人で出来る利用者については見守りし、介助が必要な利用者については介助し個人の力に応じて衛生保持の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行い、気持ちよく排泄出来る様支援している。	利用者の表情を見ながら、その人の暮らしに合ったトイレ誘導を行い気持ちよく排泄できるようにしている。職員は自立に向けて根気よくあきらめないで、適切な個別誘導を行い、オムツからリハビリパンツ・布パンツに替わることができた方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立やお茶の時間に、乳製品や食物繊維を多く含む食材を取り入れたり、散歩やTV体操等、体を動かす機会を作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人ひとりの希望や体調にあわせて入浴剤や入浴時間など楽しみながら入浴出来る様努めている。	季節を感じても貰えるようゆず湯にしたり、入浴剤を変えるなど工夫し、気持ちよく入浴できるようにしている。脱衣所の扇風機の風を直接体に当たらないように角度を変えて、快適に着脱できるようにしている。思いがけない話や歌を口ずさむなど楽しい時間を過ごしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所以前の生活習慣や体調を把握し、状況に応じて、気持ちよく休息や安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示通り、正しく服薬できる様支援し、看護師を中心に症状の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯たみ、食事の準備等で一人ひとりの力や生活歴をいかせるよう支援している。また、好みの飲み物や散歩やドライブ等、一人ひとりの状況に合わせて楽しめる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、日用品の買い物、自宅への外出等、出来る限り希望に沿った外出支援をしている。また、年間行事の中で小旅行を企画し、家族と一緒に出掛けられる機会を作っている。	同法人の事業所の夏祭りに、車いす対応のリフト車で利用者全員参加の外出支援を行っている。外出するときは事前にトイレ、車いす対応、歩行経路など見直し、利用者が楽しい気持ちになって安心・安全に出かけられるようにしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことへの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭は預からないようにしているが、希望があれば対応してゆく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいときは、職員援助のもとに電話をかけ、家族の声を聴けるように支援している。また、手紙のやりとりも自由に出来る様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの天窓にはブラインドがあり、光を調整できるようにになっている。また季節ごとの壁飾り(写真や壁画)と一緒に作成し温かみのある空間づくりに努めている。	テーブルに花を生け、季節を感じられるようにしている。利用者の歩行の妨げにならないよう、床に物を置かないようにしている。手すり・トイレ・床など毎日消毒して、清潔に居心地よく過ごしてもらえるようにしている。季節に合った空調管理や感染症予防対策をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有のホールにはTVやソファ、テーブルがあり思い思いの場所で過ごせるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	家具やベッド以外の寝具などの生活用品等、身近なものは使い慣れたものを自宅からもってきて頂き、安心して過ごしていただけるようにしている。	居室入り口に職員と利用者の手作りの作品が飾られ、部屋をわかるようにしている。身体状況にあわせベッドの位置を変えるなど、その人が暮らしやすいように配慮している。衣替えは職員が行い、必要な衣服などは家族に伝え交換している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室はわかりやすく身印をつけている。それぞれの居室には、表札と写真がドアの取っ手あたりに目につくようにしている。混乱や失敗を否定することなく、本人が理解できるような説明や援助をしている。		